

ひとの*さかひ
CLOSE UP

荒尾こすもすの里

原田 展嘉さん



はらだ のぶよし ● 1942年生まれ、下赤田区在住。趣味 花いじり
荒尾こすもすの里のテーブルやベンチなどは、全て原田さんの
手作り。随所に原田さんの愛情がたくさん注がれています。

平成15年、荒尾市野原の下赤田区に
休耕田を利用して「荒尾こすもすの里」
がつくられました。今では、荒尾有数
の観光名所になった、こすもすの里。
立ち上げから携わっているのが、原田
展嘉さんです。原田さんがこすもすの
里を作ろうと思ったきっかけは、火災
予防と休耕田の景観を良くするため
でした。管理運営は、原田さんが代表を
務める下赤田コスモス会が行っていま
す。地域の110世帯が会員で、その中の

約30人が実際に運営に関わっています。
平成15年の開園から3年間は、市民活
動サポート事業助成金などを活用して
いましたが、平成18年からは花や農産
物の販売、地域からの寄付などで、独
立して運営しています。
こすもすの里のコスモスは、背が低
くなるように、種まきの時期を工夫し
ています。それは「車椅子の人や子ど
もたちにも楽しんでほしい」という原
田さんの心遣い。県外からの訪問者も

多く「今まで見た中でこのコスモス
が一番だと言ってくれる人も多いで
すよ」と原田さんは笑顔を見せます。

以前、荒尾消防署の署長を務めてい
た原田さんは、今年、秋の危険業務従
事者叙勲を受賞し、瑞宝双光章に輝き
ました。今も災害に対する思いは強く、
台風の後には地域の道を回り、木など
を撤去しているそうです。「チェーン
ソーの使い方なら、現役にも負けませ
んよ」と語る原田さんは、地域で頼れ
る存在です。

「消防署員だったときは市民の皆さん
のおかげで仕事ができました。だから
私は皆さんに恩返しをしたいのです」
と言う原田さん。地域の皆さんも、「原
田さんのためなら」と言って、こすも
すの里を手伝ってくれるそうです。お
互いを思いやる心が地域の絆を深くし
ているのだと感じました。

先日、運営に携わる80歳の女性が「今
日は客さんが少ないけん、力の入らん」
と言ったそうです。それを聞いた原田さ
んは、その女性にとってこすもすの里が
本当に生きがいになっているのだと実感
し、とてもうれしかったそうです。

防災、観光、福祉などさまざまな相
乗効果を生み出すこすもすの里は、こ
れからどのような効果を生み出すので
しょうか。今後がますます楽しみです。
毎年、開園期間は10月から11月の約40
日間です。ぜひご来園ください。



1 満開のコスモス (10月12日撮影)
面積は2.4ヘクタールあります。



2 新種のコスモスも多く咲いています。



3 農産物などを販売する地域の皆さん
素敵な笑顔で迎えてくれました。